

1



Okitsune-sama no
Wakeari Yome

Presented by

mono

あるところに、いにしえより
狐に護られし村がありました

山へ入る者を守り病を治す狐を
村人は「お狐様」と崇め奉っていました

しかしいつしか狐は村へ
生贄を求めるようになりました
拒めば天災が降り注ぎ村人は
狐を恐れるようになりました

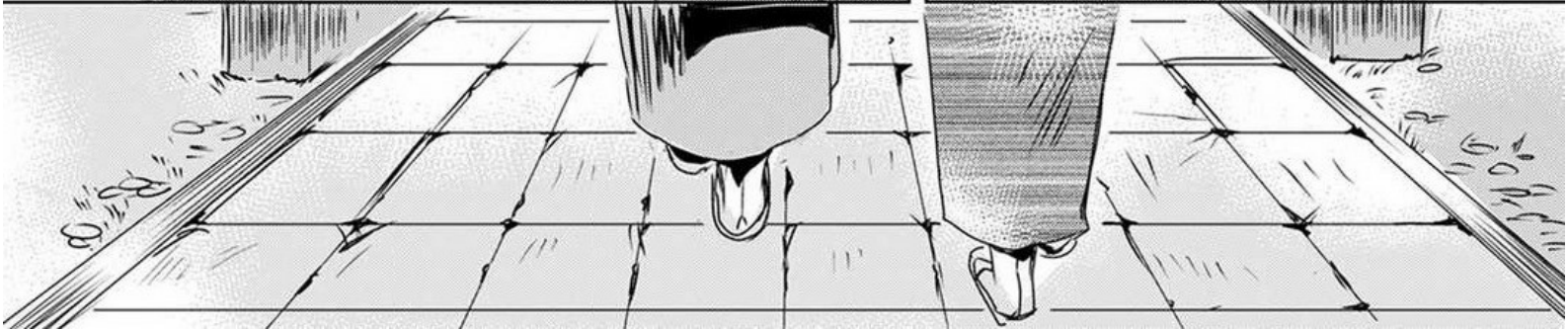
そして訪れた100年に一度の
生贄の儀
誰も生贄になど
なりたくはありません

しかし誰かが行かねば
村は滅びてしまいます

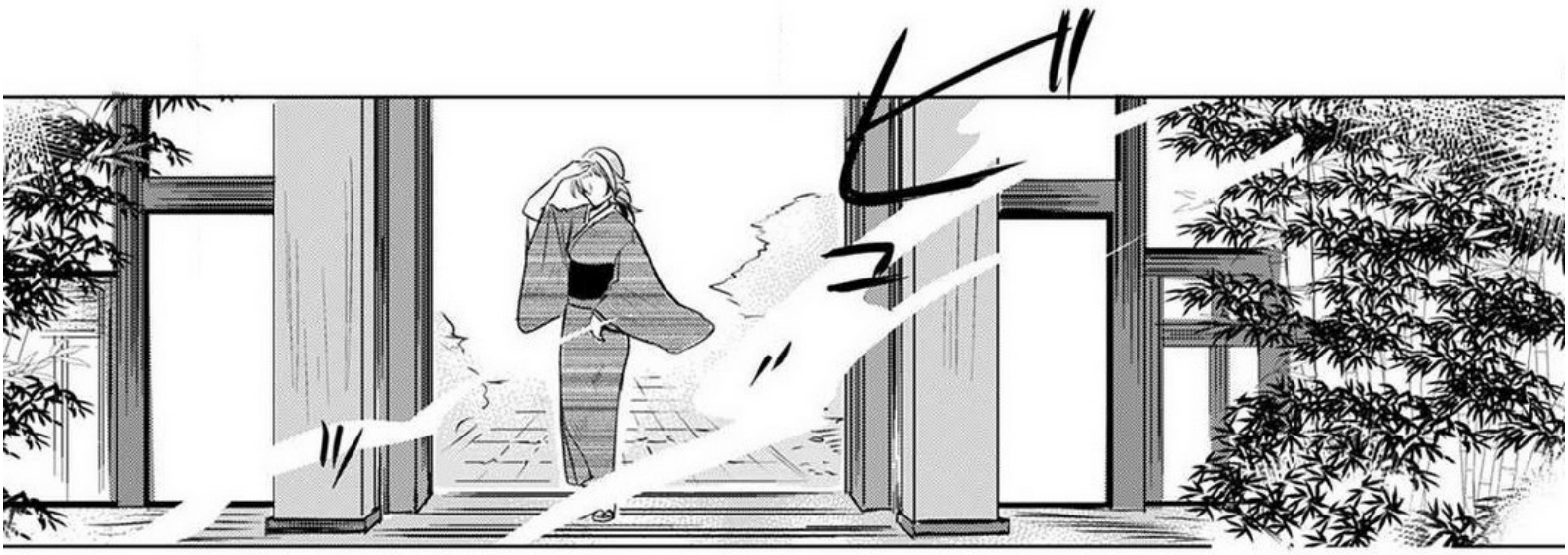
「ならぬ」

わたくし
「私めが参りましょう」









人を喰らい
村を滅ぼさんとする
恐ろしいお狐様



そう

あの男こそが



そして俺は
生贄だったはずの「みや」

どうか…
息災で…



はっ

早くせんと
洗濯物が
乾かん!



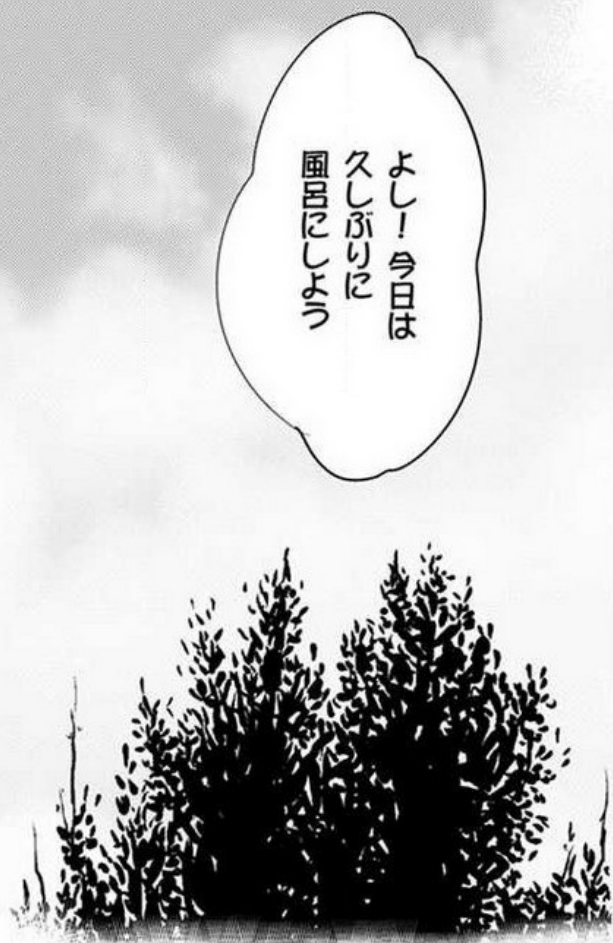
それにしても

こんな広いお屋敷
どうやってひとりで
切り盛りしてたんだ
ろうか



ふー
やっと
終わった





よし！今日は
久しぶりに
風呂にしよう



ずっと
ひさびさ...



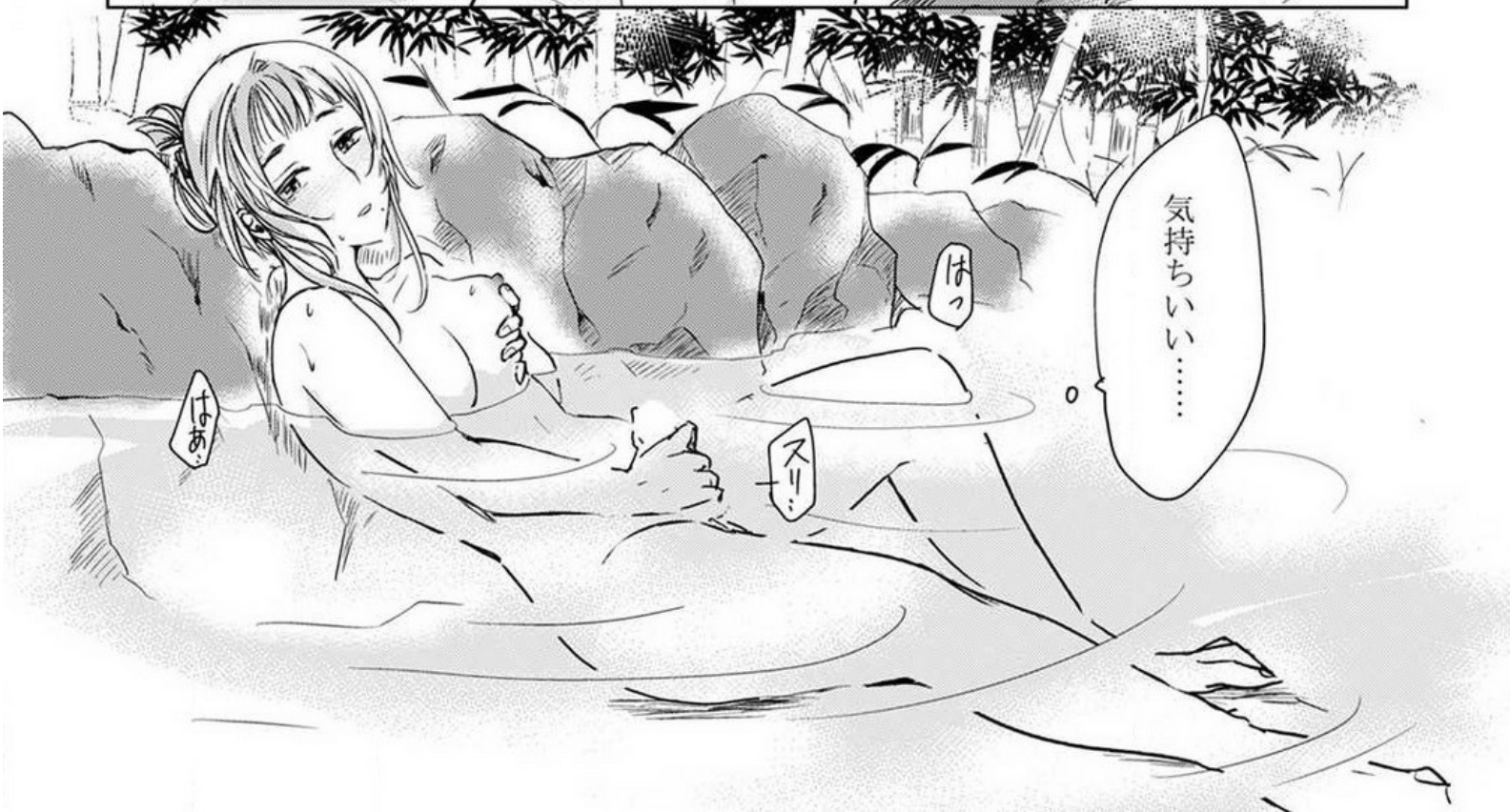
はー
気持ちええー

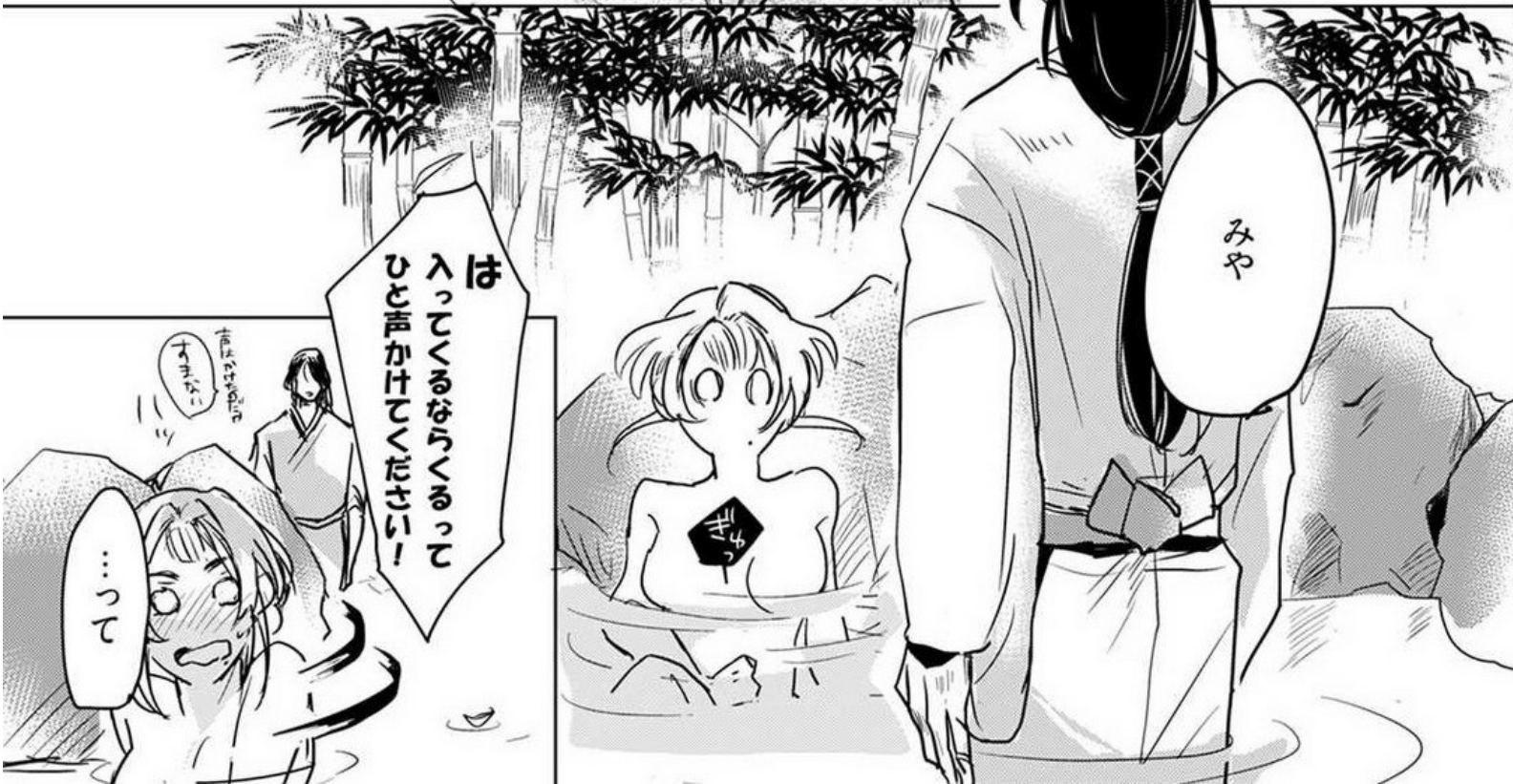


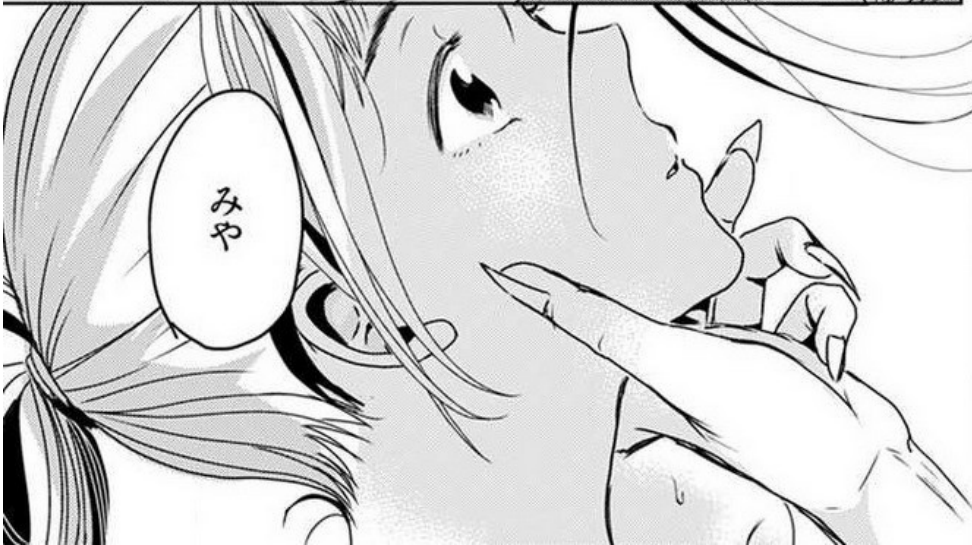
村にいたときは
風呂は水を張るのも
一苦労で

こんなたぐさんの
湯見たのは
初めてだったなあ













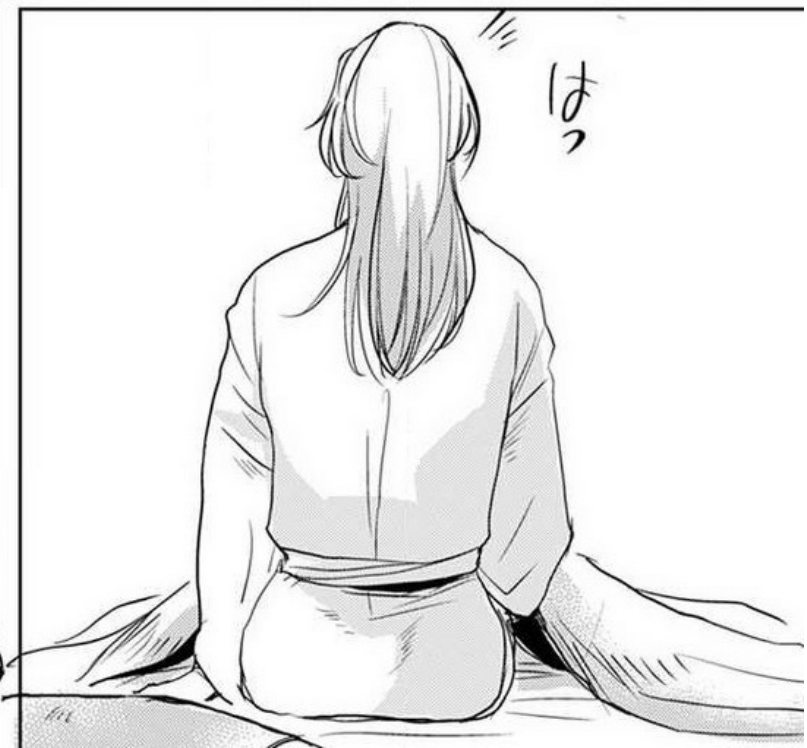
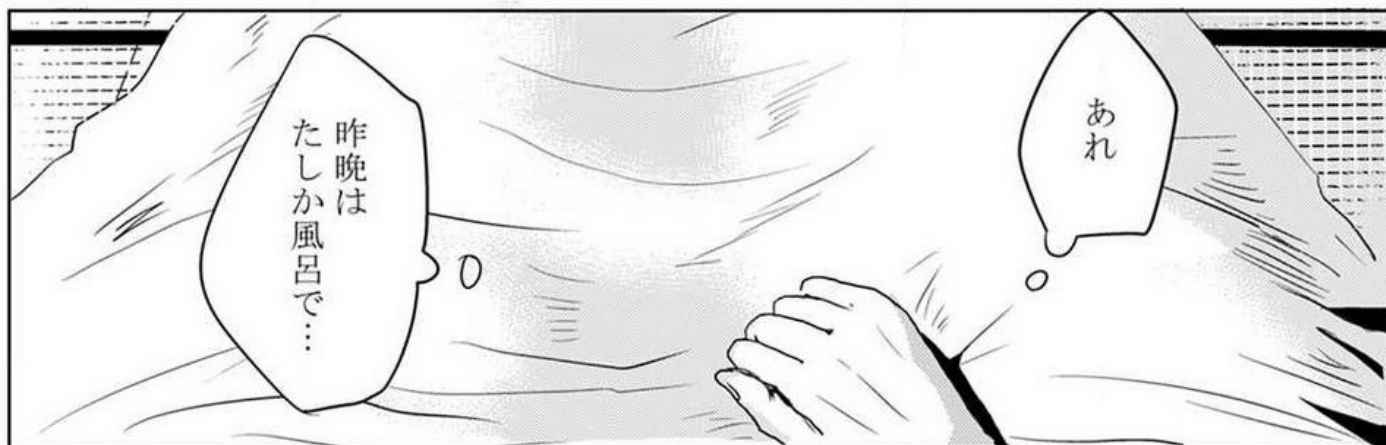
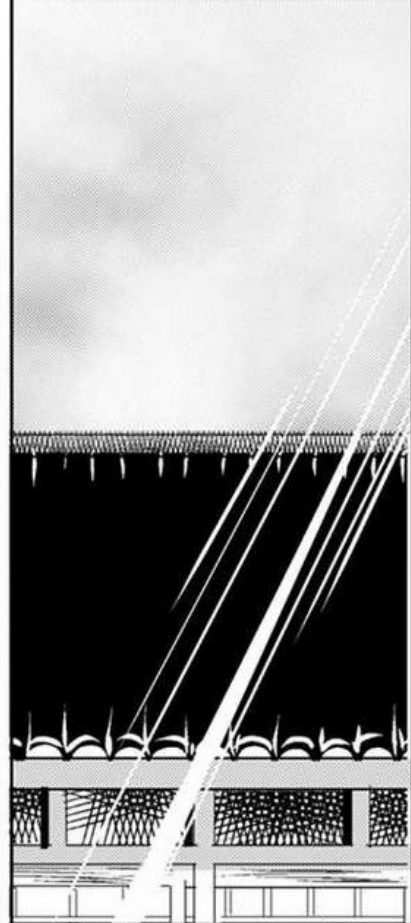
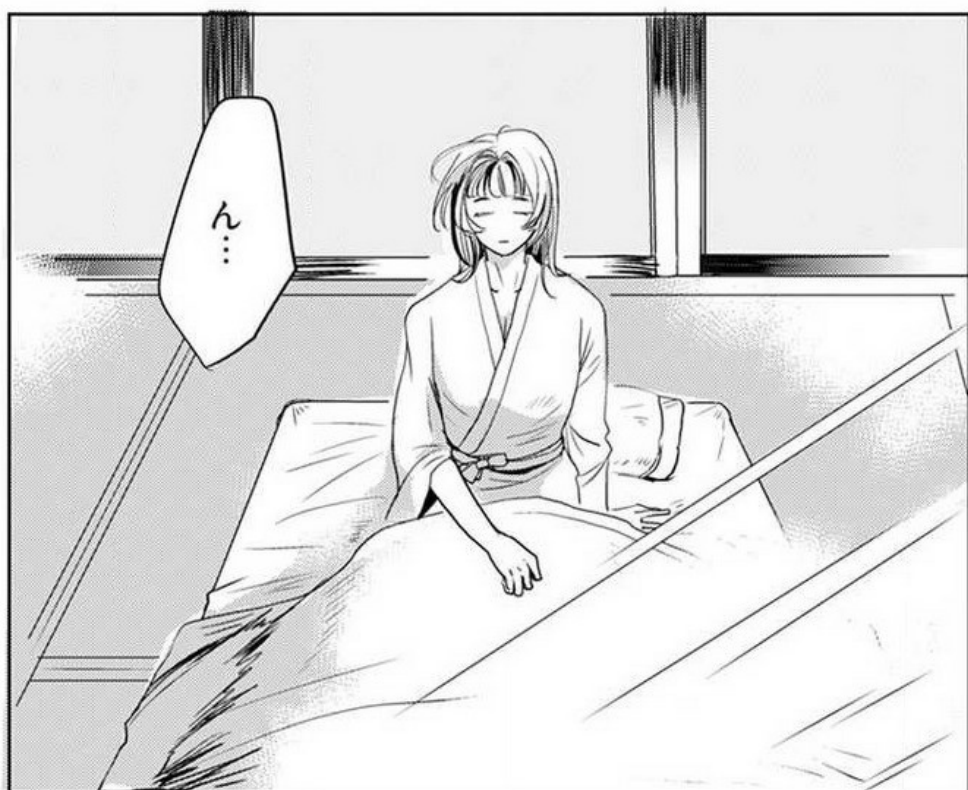
元は男の身だったお前を
おんなにつくりかえて
きたのは私だよ？















To be continued▶▶

2



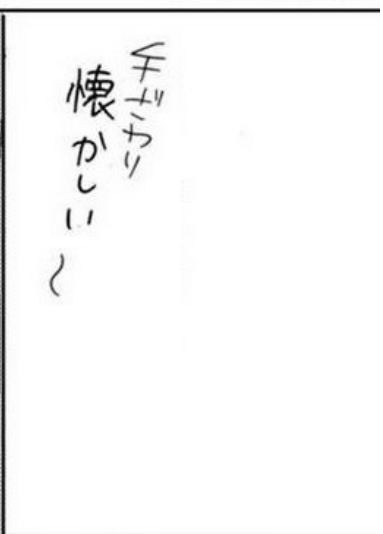
Okitsune-sama no
Wakeari Yome

Presented by

mono

お狐様はときどき
人から獣の姿になる









すまなかった
確認したかっただけ
なんだか

え？

みや

身体の具合は
どうだ

変化が
あったろう

その様子だと
効果はあった
ようだな

変化…ですか





みや、お前

わらし
童貞だったか

んぐっ
しかし、お狐様の供物は
童貞処女と決まっつとると
長老が

それに
触られるとっ、
へん、ですっ

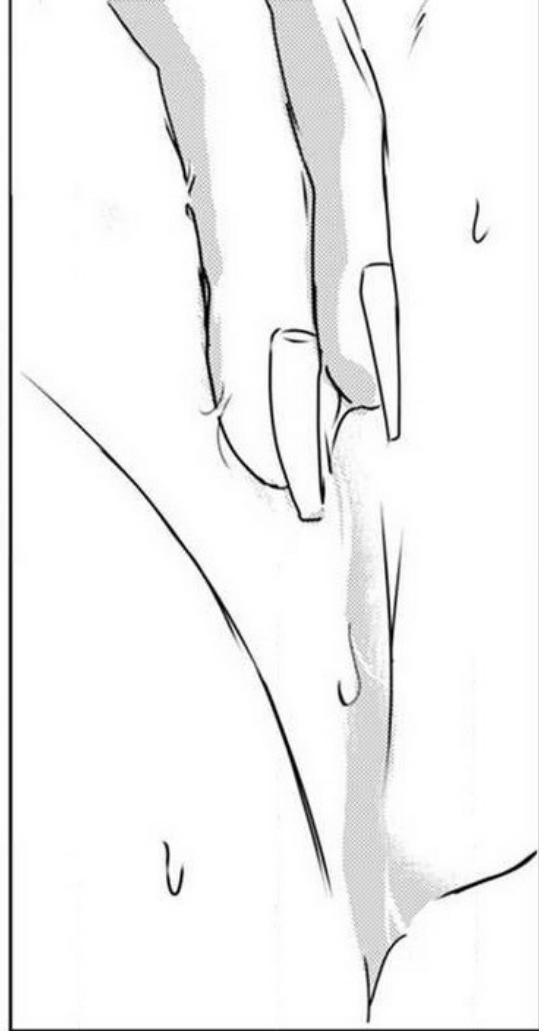
そういうことにな
っているのか

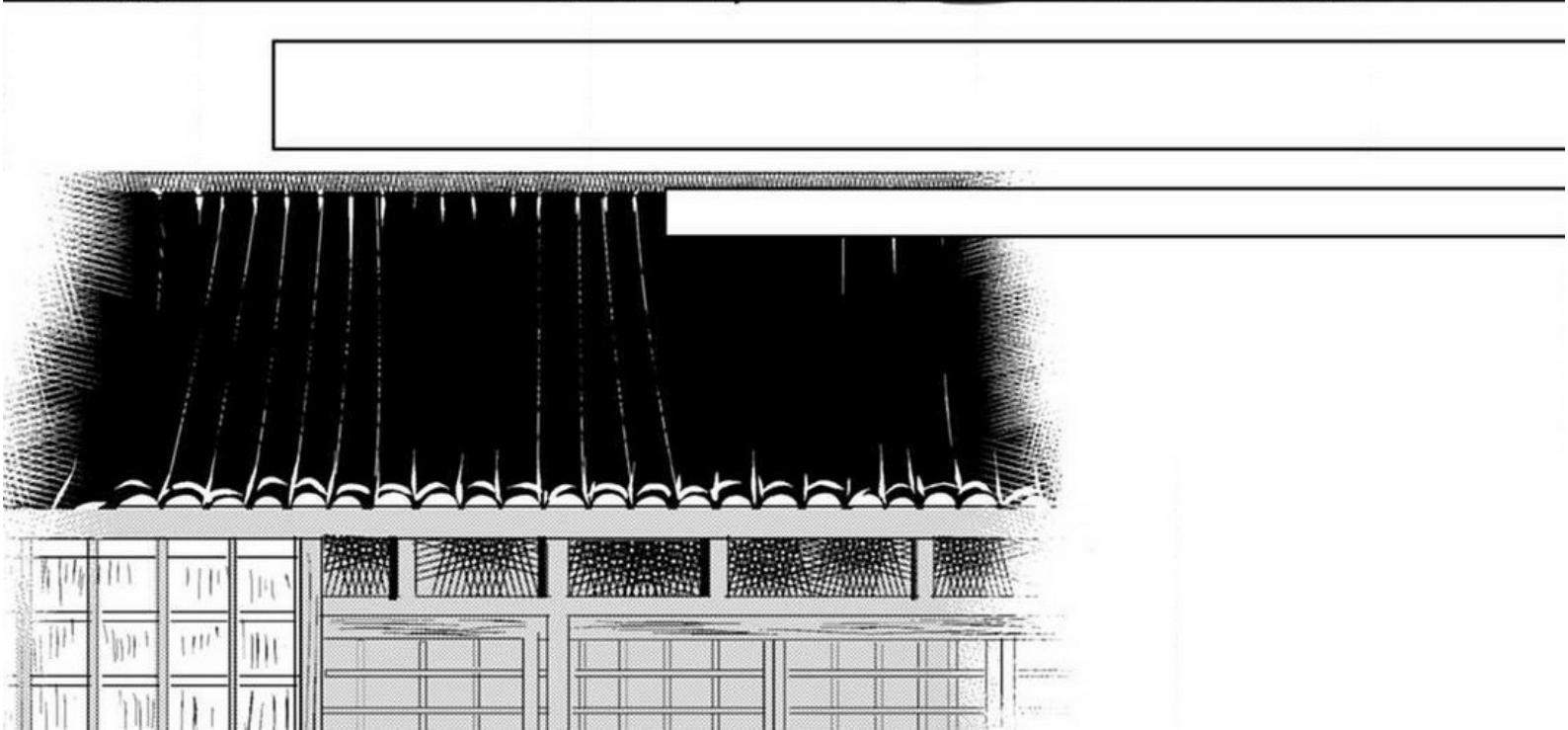
……
なるほど

はっはい

まあいいやみや
覚えておきなさい









お、あったあった



ここみにわらびに…
山うども欲しいな

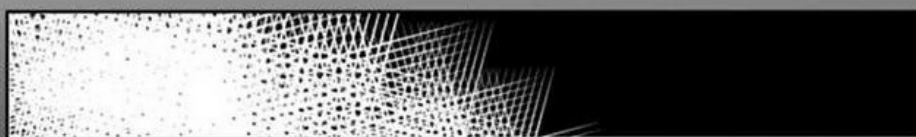
今日は帰ったら
あく抜きだ



春か…

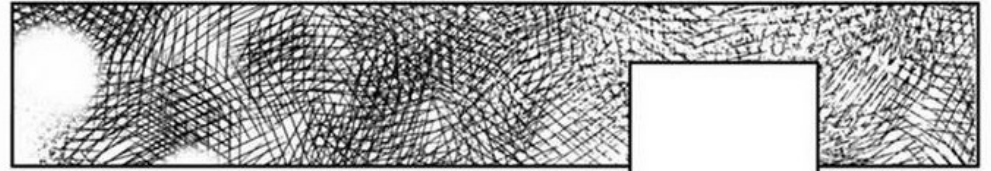
狩りのできない
子供の頃は
みんなで山菜を
取りに行ってたな











結局、喜一ちゃんは
見つからなかった



熊にやられたか
神隠しにあったか
それか大人たちが
言ってた通り
本当に親に…？



子ども…？







To be continued…

3



Okitsune-sama no
Wakeari Yome
Presented by

mono





おみやのおっかさんか
むつの大人の姿みたいだ

どうしておなごに
なったんだ？

うーん

これは話すと
長くなるんだけど…

それより
喜一ちゃんは10年も
どこに行ってたんだ？

みんな心配してたんだ
俺もむつも

喜一ちゃんの
親父さんだって

俺…

何も覚えてないんだ…











だが力を失い
人を癒せぬ私が
お前を食うことは
その言霊に反する

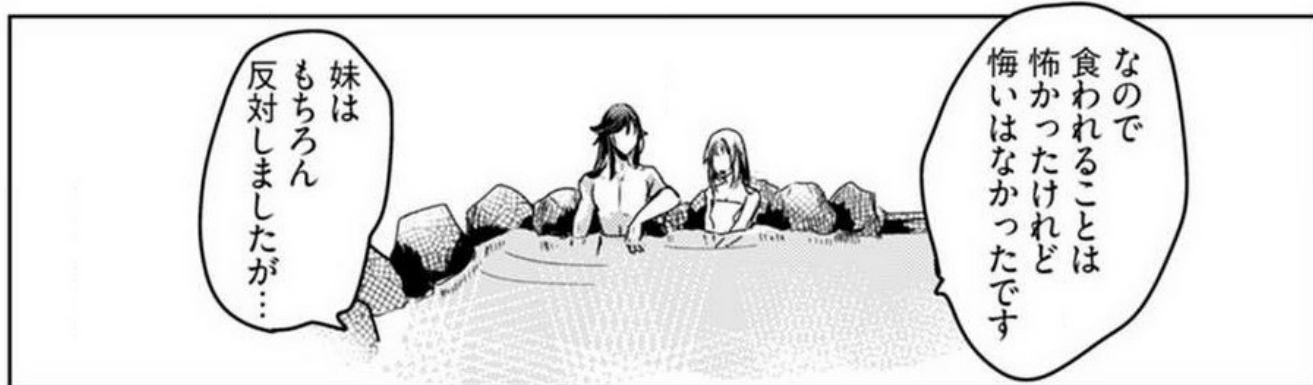
しかし、みや

お前はこのような身体に
なるよりも食われた方が
良かったか？

えっまさか

俺が生贄になった代わりに
身体の弱い妹は金持ちの家で
面倒を見てもらえます

俺はあいつに
薬も買えないし
腹一杯食わせて
やることもできなくて…



女々

村の男衆はみんな
あのようなもんです



どうして伸ばした？
結うのが面倒だろうに

え？

うーん…
周りの女衆はみんな
髪は長くしてたもんで
そういうもんかと



あれも似合っていたが
長いのも良いな

あ…
ありがとう
ございます

人のことには疎いのに
こういうのを
どこで覚えたんだ…







は

あつ！

喜一ちゃんのこと
お狐様に言うの
忘れてた！



お狐様は別嬪なのに
気にしない方なんだよなあ



勝手に連れて
来ちゃったの
お詫びしないと

しかも
幼なじみが
昔の姿のままで
現れたなんて
真っ先に
相談すること
だったのに

なんでまたトビウラ...

お狐様が風呂から
上がってからでいいか...



喜一ちゃん？



喜一ちゃん
飯は食えるか？







刑部様
こちらを

…もう狐は
気づいたでしょう

ここは早急に
離れるのが
よろしいかと

そうそう
コレだよ

あーわかってるよ

じゃあ
用事も済んだし
帰るか

俺たちの山に



はい
刑部狸様

みや…!



To be continued>>

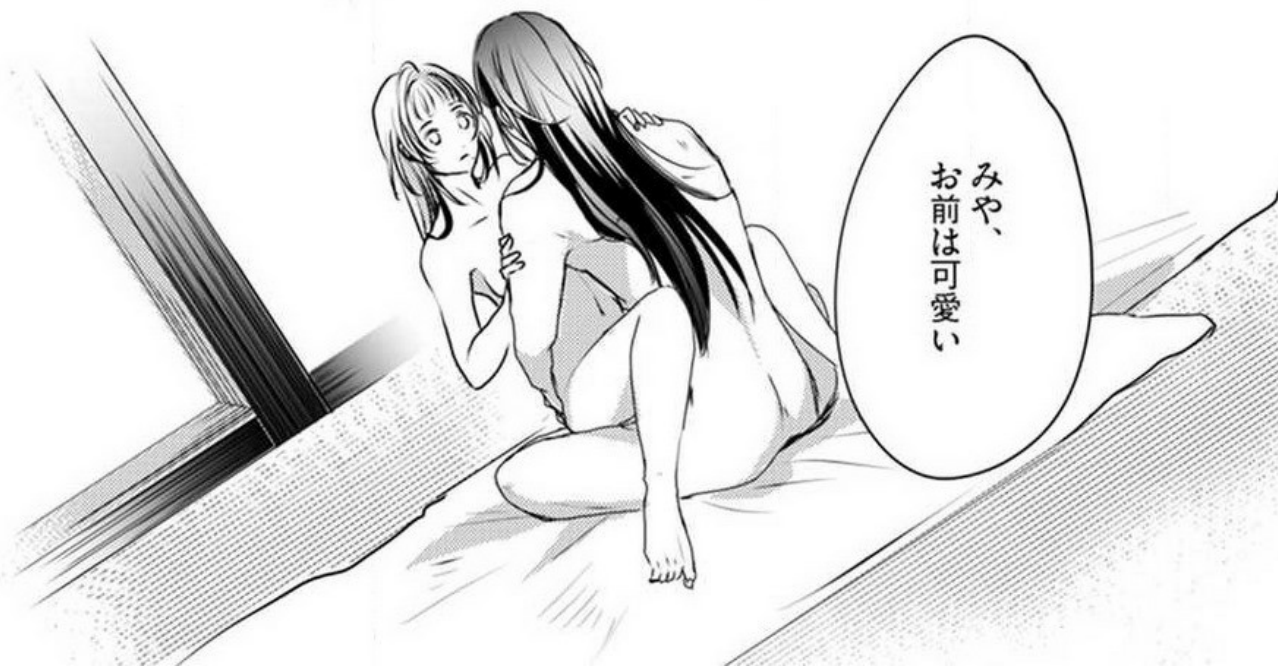
4



Okitsune-sama no
Wakeari Yome
Presented by

mono

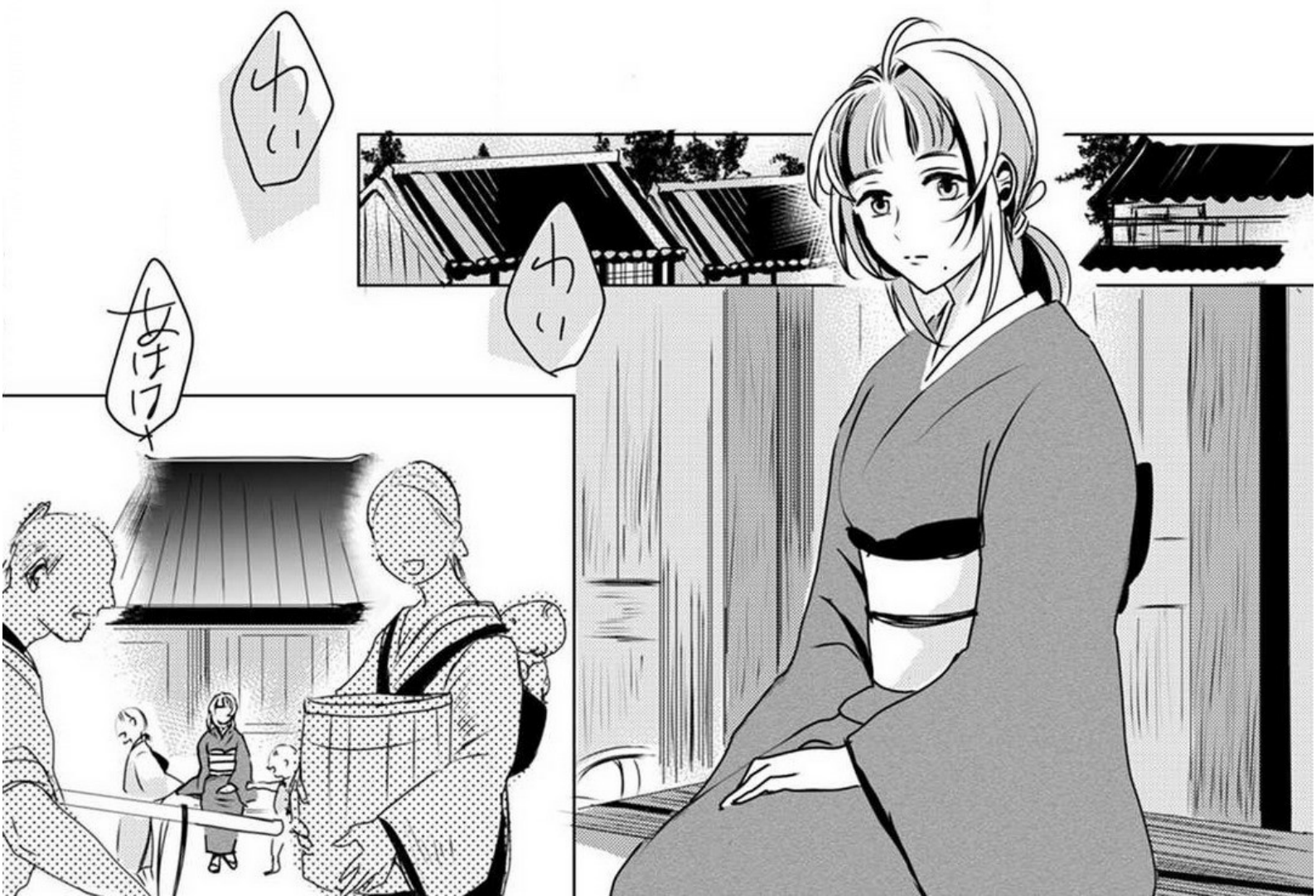


























私はお前を食わぬよ

村へ戻るといい



俺は……!

村には、
戻れません……



お狐様は……

俺に情けをかけて
くださった……



ここの村の
人たちは……



あいつが人間に甘いのは
今に始まったことじゃねえ

そもそも
あいつの……
まあい

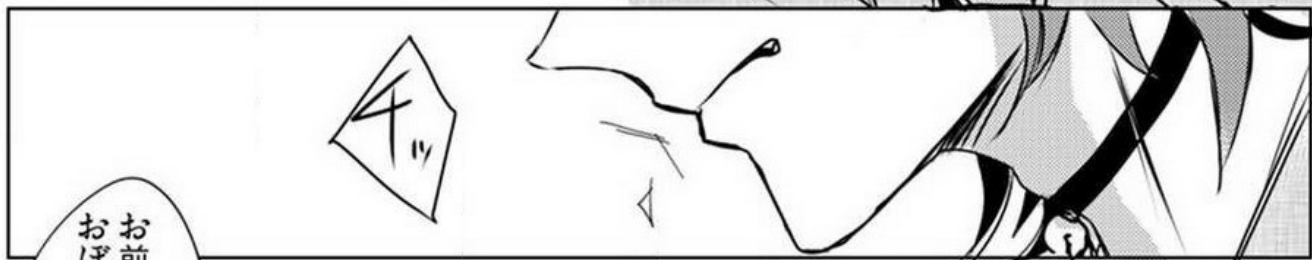


決まってるんだろ
あいつが
嫌いだからだよ

誰かが狐のせいだと
言えばたちまちに
恐怖となって広がる
人間てのはそういうもんだ

それをほっておいたのは
あいつだ
何にも興味がねえからな

昔っから
俺のことだって…



お前…まだ
おぼこなんだろう？

あいつの嫁を寝取ったら
面白いだろうなあ





やったことあないが
まあいい



いいやだ!

こわい
お狐様じゃないと
こわい……!



くそ……
女ってのは
こんな非力なのか



はなせ!
……ぐっ





5



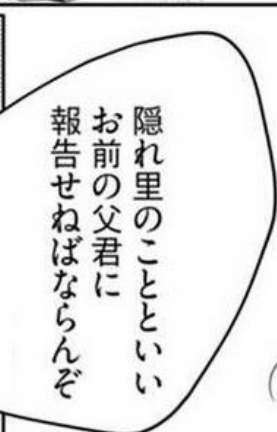
Okitsune-sama no
Wakeari Yome

Presented by

mono







お狐殿

お二人は
ご兄妹のように
育った仲

刑部様も寂しさから
気を惹きたかったが
ためのことです

刑部様も
反省なさって
おります

刑部様

ごめんなさい…

っ…

どうか勘弁を



私が子供の頃
刑部の父親のもとに
預けられていたとき
兄妹同然で育ったのだ

兄い！

兄い！

兄い
わたしも！

随分と私に懐いていたが
私が出ていってから
素行が悪くなり父親から
山を追い出されてしまった

次に会ったときは
若い男の姿だったが

あんなに文を書いたのに
一度も返事をくれないし

一度だって
会いに来てくれなかった

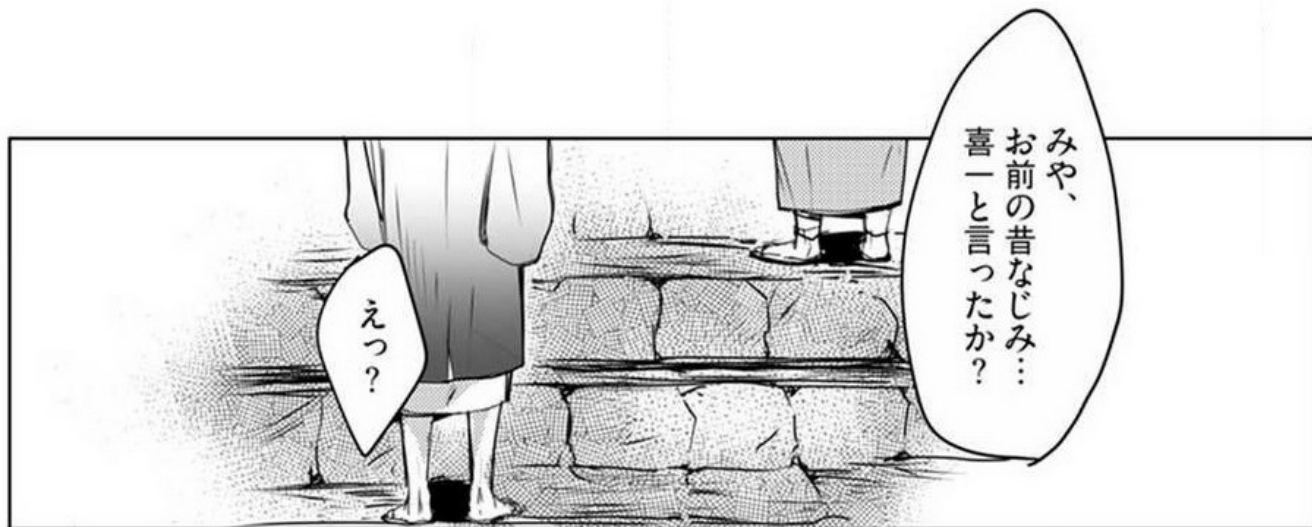
あんたは
いつもそうだ

あんたの大事なもんを
ぶっ壊してやる
この冷血狐！

文は来てもいたが面倒で

あれが玉鱗を
奪っていったのは
そのあとだな

お狐様……
それはお狐様にも
原因があるかと……



あの者は
普通の人間では
ない

え？
でも、昔の喜一ちゃんは
普通の童でした

死んだおっかさんは
外から嫁いできたって
聞きました



はい、子供の頃
山で行方がわからなく
なって…

もう…
死にまっただものと
思っていたんですが



隠れ里の人間たちは
おそろく傷ついた者たち
だったろうが…

人間を
助けていたのは
喜一の「力」だ

あの者の父母は
どちらかは
人間ではないだろう

おそろく
私や刑部の術は
あの者には効かない

うまく隠してはいるが
あの者は我々の
天敵の血を引いている



俺は…喜一ちゃんが
普通の人でなくても

喜一ちゃんが
生きていてくれて
嬉しかったです



刑部は知っていて
そばに置いている
ようだがな

天敵…？



喜一ちゃんを
許してくれて
ありがとう
ございました

お狐様



…みや、お前が
いつも持っている
錦守があつたな

え？ はい

※ひとみごころ
妹が、人身御供になる俺に
持たせてくれたんです

これは
借りよう

※生贄として人間を神に供えること

ところで
みや

髪はすまなかつたな
せつかく伸ばして
いたところを

ずいぶんと
懐かしい姿に
なったものだ

あっ!!

や、やっぱり
ある!

でも
これじゃあ
子狐を産めない…

ふむ…
これは私にも
今は無理だな

えっ

喜一とやら
なかなかどうして
優れた術を使う

カモ入めて
みなぞ、

はい

お狐様
感心している
場合では
ありません…



ただお前は
もう人とは違う

里に戻っても
他の者との差異に
苦しむことに
なるかもしれないが

戻るか？
妹のところへ



みや

このまま
おのこ
男子が良いならば
それでもかまわない



…っ

お狐様はっ

誰かに
起こしてもらわないと
起きないし

髪も誰かが
結ばないと
ボサボサだし



それでもし
お狐様が許して
くださるんなら

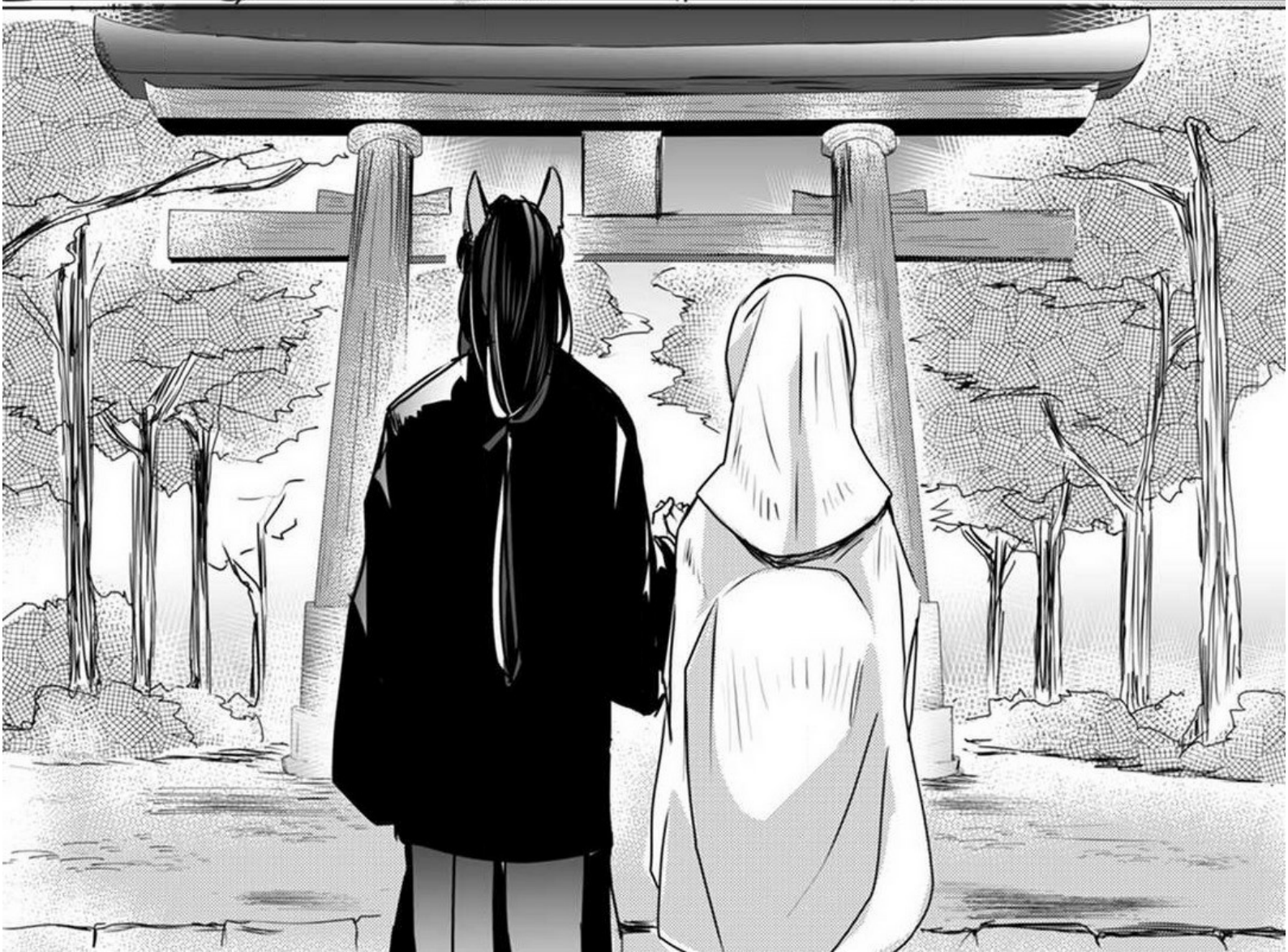
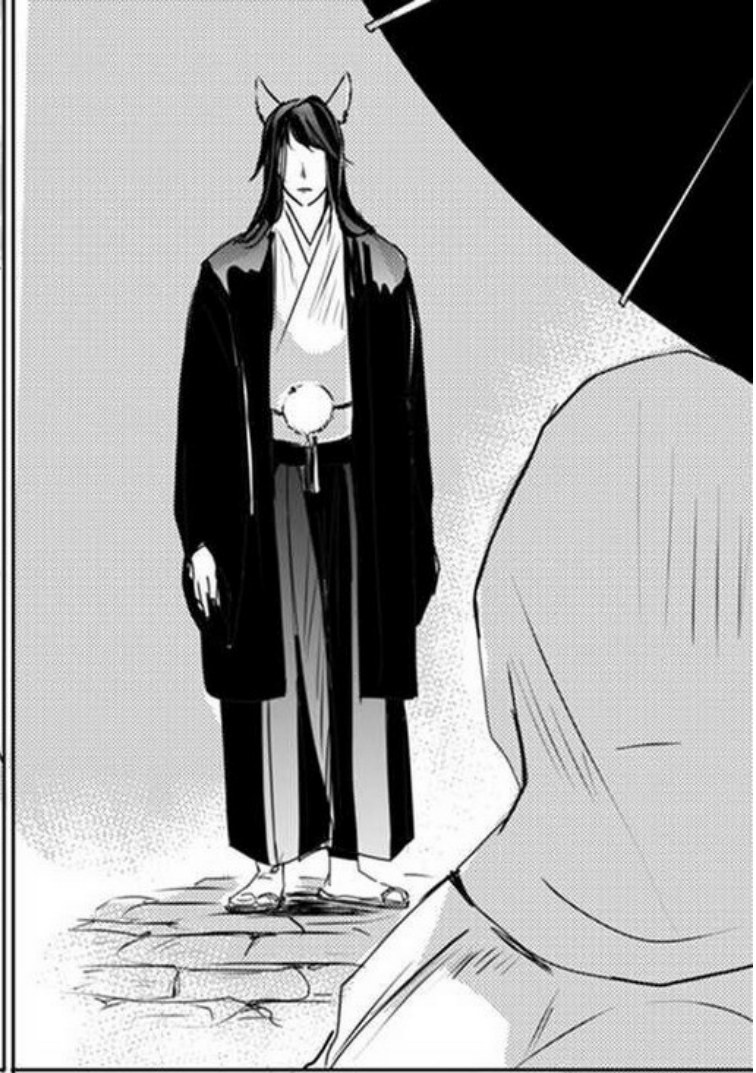


だから

俺に
ずっとお世話を
させてください









初夜
このときが！



ついに
やってきて
しまった…

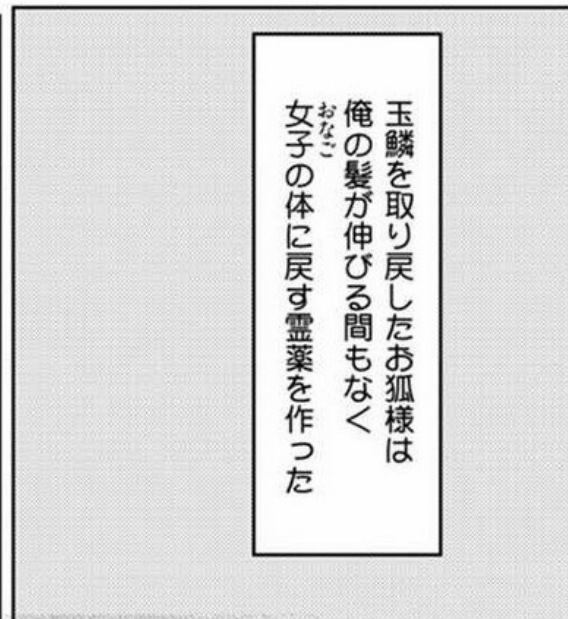


お狐様曰く

人を癒すのは
お狐様の妖術…
などではなく

雄雄
つがいの魚が
住んでいる

ふたつの玉鱗から
滲み出る水を使って
薬を作ることが
できるのだという



玉鱗を取り戻したお狐様は
俺の髪が伸びる間もなく
女子の体に戻す靈薬を作った
おなこ



元に戻るのに
またお狐様の…を
飲んだりするのかと
思ってたんだけどな…

喜一ちゃんの術と違って
時間をかけて女子にされた
俺の身体は

もうすでに
「女子の身体」なんだろうな





…もし俺が
村に帰ると言ったら

仕方あるまいな
私はここから
お前のことを想おう



もうお前は
私のものであり

私は
お前のものでも
ある

みや



お狐様

俺の全部
あなたのものに
してください



熱い











あるところに、いにしえより
狐に護られし村がありました



しかしいつしか狐は
村へ生贄を求めるようにな
りました

拒めば天災が降り注ぎ
村人は狐を恐れるようにな
ったのです



山へ入るものを守り
病を治す狐を
村人は「お狐様」と
崇めていました



そしてあるとき
ひとりの娘が
村の人々のため
自ら生贄となりました

狐は娘を喰うつもりが
そのころの美しさに心打たれ
再び山の神となり
人を癒すようになったということです



END